

足立悦男著

文芸研選書 3

『研究・文芸研の授業』

本書は、『西郷文芸学の成立と展開』（明治図書）などを著し、西郷文芸学に造詣の深い著者が、最近十年ほどの間に文芸研の授業について発表された論文集である。

全体の内容は、まえがきで述べられているように「『授業の事実』をふまえるために、授業場面をできるだけ引用しながら」構成されている。

足立先生は、西郷文芸学が一貫してもっていた授業観を「教師主導型でもなく学習者中心型でもなく、授業という営みを双方の交流する『磁場』のようにみていく」（P 138）「せりあがる授業」にあるととらえ、授業の分析を試みられておられる。さらに、このような授業観を裏付ける教材観について、「西郷先生の授業を何度か拝見し、いつも驚かされるのは教材観の深さです。」（P 36）と称賛され、その教材観の深さは、社会、理科といった関連科学への目配りによる思想の深さ（認識内容）と思考法の系統化（認識方法の系統指導案）（P 35）との二つの視点によって保障されていると述べておられる。

そして、このような授業観、教材観に基づいて、実際の授業記録が、具体的かつ鮮明に分割されている。小学校、中学校、高等学校と、さらに学年を問わず、授業案作成に携わる者にとって、多くの有益な示唆に富む高著である。

（A 5判、一六四ページ、一九九三年八月、

明治図書、一八六〇円）

（丸山 範高）